

平成30年10月3日

台風24号による農作物等の被害拡大防止に向けた技術対策（事後対策）

農業総合センター  
専門技術指導員室

野菜

1 施設野菜

- ・施設内に雨水が浸水した場合は、直ちにハウス内外の排水を図り、換気を行い、湿度の低下に努める。
- ・浸水により作物の根が弱るので、液肥の葉面散布を行い草勢の回復を図る。
- ・軟弱野菜類では、台風通過後の急激な高温による萎凋、傷みを軽減するため、遮光ネットにより日射を抑制する。
- ・病害虫の発生が懸念される場合は、必要に応じて薬剤防除を実施する。

2 露地野菜

(1)葉物類（レタス、ハクサイ、キャベツ等）

- ・圃場が浸水、冠水した場合は明きよを掘るか、ポンプによる汲み上げなどできるだけ早期の排水に努めるとともに、マルチ栽培ではマルチをめくるなど、圃場の乾燥を促す。
- ・茎葉に付着した泥をきれいな水で洗い流し、損傷した茎葉を取り除く。
- ・圃場の乾き具合を見て早めに中耕、培土を行い、発根を促し草勢の回復を図る。
- ・中耕・培土の際、草勢を見て追肥や液肥の葉面散布を行う。
- ・細菌病等の発生が懸念されるため、収穫前日数に注意して薬剤防除を実施する。

(2)ナス（茎葉、果実の損傷の場合）

- ・キズ果、変形果を除去する。
- ・草勢の回復を図るため、収穫は少し早めに行う。
- ・褐変腐敗病、青枯病などの発生が懸念されるので、排水対策に努める。

(3)ネギ（葉身の折れ曲がり、一部倒伏の場合）

- ・ネギは湿害を受けやすいので、圃場が浸水、冠水した場合は直ちに明きよを掘り排水に努める。
- ・倒伏した場合は、直ちに株起こしを行う。
- ・葉身が損傷した場合は、土寄せは、すぐに実施せず、新葉の伸びを確認してから行う。
- ・軟腐病などの発生が懸念されるので収穫前日数に注意して薬剤防除を実施する。

果樹

1 ナシ、カキ、リンゴ、クリ、ブドウ

- ・浸水や滞水したほ場は明きよを掘り、すみやかな排水に努める。
- ・商品価値のない落下した果実は園外に持ち出すなどして処理する。
- ・樹の損傷部位(折損)をせん定し、切り口を塗布剤で保護する。
- ・カキ、リンゴ、クリなど立木栽培で倒伏した樹は出来るだけ早く引き起こし、根元がぐらつかないように支柱で固定する。
- ・枝葉の損傷などによって、病害の発生が懸念されるので、収穫前日数に注意して薬剤散布を行う。

大豆・そば

- ・速やかな排水に努める。特に水田に作付けした大豆は畦畔を切るなどして排水に努める。